

平成26年度

第2次豊橋市民病院改革プラン取組状況報告書

平成27年9月

豊橋市（豊橋市民病院）

目 次

	頁
1. 取組結果の概要	1
(1) 収支状況	〃
(2) 数値目標	〃
(3) 事業運営	〃
2. 体系図	2
3. 施策目標達成の具体的な取組	3
(1) 医療スタッフの確保	〃
(2) 高度専門医療の充実	4
(3) 地域連携の推進	6
(4) 災害対応の強化	7
(5) 効率的・効果的な病院運営の推進	8
4. 事業計画	11
(1) 収益的収支	〃
(2) 資本的収支	13
(3) 定員管理に関する計画	14
5. 取り組みに対する評価	〃

第2次豊橋市民病院改革プラン（以下「改革プラン」という。）は、「毎年度、豊橋市民病院改革プラン策定会議において点検・評価し、市議会に報告のうえ公表」することとしています。

改革プラン（26～30年度）の初年度となる26年度の取組状況は以下のとおりです。

1. 取組結果の概要

（1）収支状況（P11参照）

改革プランの初年度である26年度の収支状況については、診療報酬の改定や消費税率の引き上げのほか、公営企業の会計基準改正による影響はありましたが、経常収支は、15億2,400万円の利益を計上することができました。一方、事業収支については、引当金の義務化に伴う特別損失の計上により、42億7,300万円の当年度純損失を計画していたところ、実績では37億5,100万円となり、計画から5億2,200万円改善することができました。

これは、支出において、人件費や経費などが計画を大きく下回りましたが、収入においては、入院患者数及び患者一人当たりの収益は計画を下回ったものの、地域医療支援病院の承認など急性期病院としての取り組みや7対1看護体制の維持等により、支出と比較し僅かな減少となったことによるものです。

（2）数値目標（P12参照）

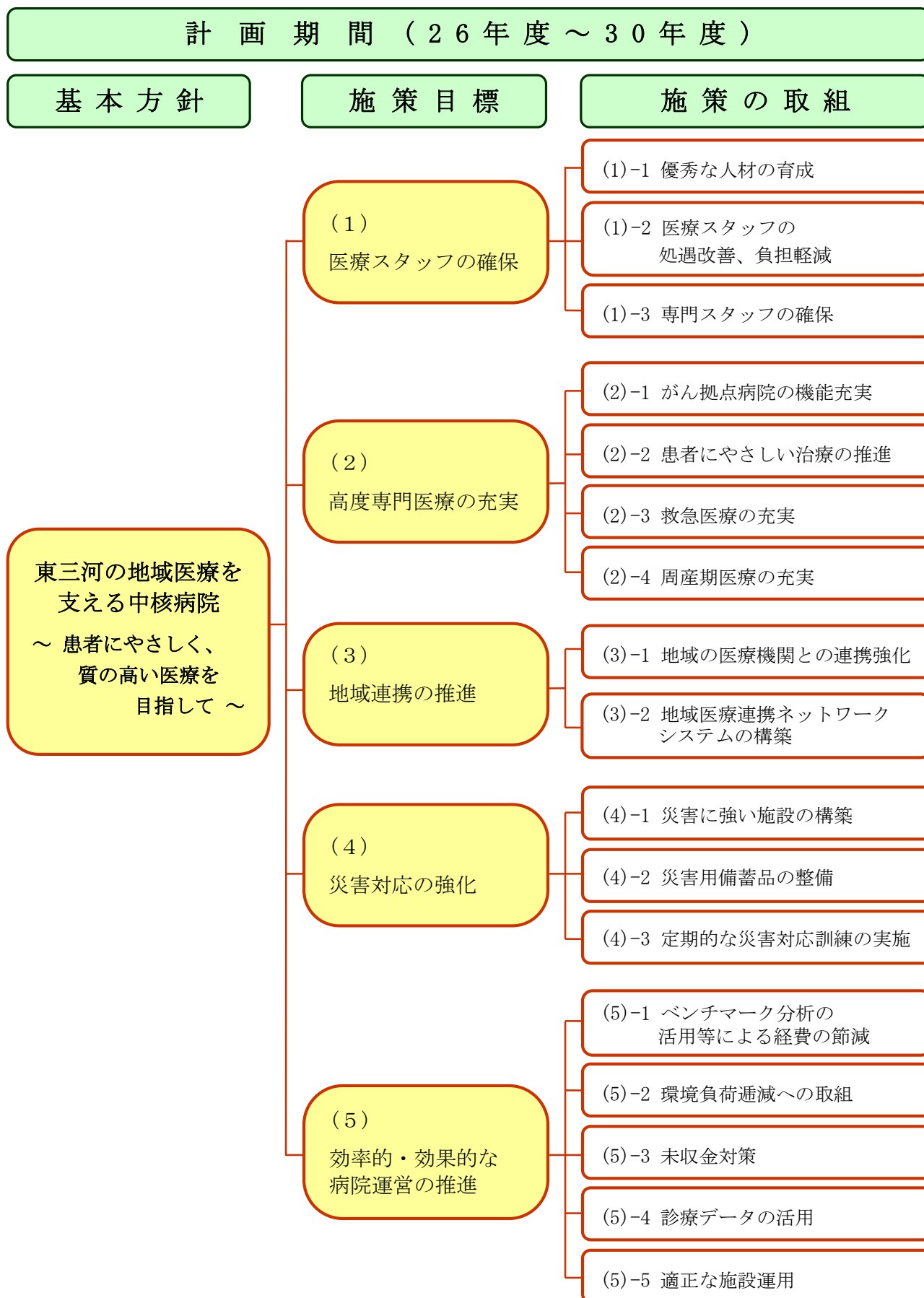
「患者一人当たりの収益」は入院、外来ともに目標値を下回りましたが、「経常収支比率」は、収入の確保と支出の抑制により、目標値より2.0ポイント上昇し、106.2%となりました。また、地域医療連携の強化により「紹介率・逆紹介率」が、手術支援ロボットシステム（ダヴィンチ）等を活用した内視鏡手術の拡大により「手術件数・内視鏡手術件数」が、それぞれ目標値を大きく上回りました。

（3）事業運営

医師や看護師を始めとした医療スタッフの確保のほか、総合周産期母子医療センターとバースセンターを開設し、周産期医療体制の強化を図りました。また、地域連携登録医制度を活用した病床・医療機器の共同利用や医療従事者に対する研修プログラムの提供など地域の医療機関との連携強化に努めた結果、26年9月26日付けで愛知県知事より「地域医療支援病院」の承認を得ることができました。さらには、患者にやさしく負担の少ない治療を推進するため、手術支援ロボットシステム（ダヴィンチ）等を活用した内視鏡手術を拡大するなど、高度専門医療の充実に努めました。

主な事業としては、地域がん診療連携拠点病院として、放射線治療体制の充実・強化を図るため、28年度の開設に向けた放射線治療施設等の整備に係る基本設計・実施設計を進めるとともに、整備工事に着手しました。また、災害拠点病院の機能を強化するため高架水槽の耐震補強工事を開始するなど、東三河の地域医療を支える中核病院として、より一層の診療機能・診療体制の充実に努めました。

2. 体系図



3. 施策目標達成の具体的な取組

(1) 医療スタッフの確保

(1)－1 優秀な人材の育成

取組項目	患者ニーズに対応した医療を実施するため、自ら次世代を担う優秀な人材の育成、確保に努めます。また、卒後臨床研修評価機構認定病院として、より質の高い研修プログラムを実施します。											
実施内容	<p>卒後臨床研修センターにおける研修医指導體制の充実を図るため、より質の高いカリキュラムを目指し、臨床研修指導医を養成しました。</p> <p><研修医・指導医 医師数></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">25 年度</th> <th style="text-align: center;">26 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">研修医</td> <td style="text-align: center;">37 人</td> <td style="text-align: center;">33 人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">指導医</td> <td style="text-align: center;">69 人</td> <td style="text-align: center;">70 人</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	25 年度	26 年度	研修医	37 人	33 人	指導医	69 人	70 人
区 分	25 年度	26 年度										
研修医	37 人	33 人										
指導医	69 人	70 人										

(1)－2 医療スタッフの処遇改善、負担軽減

取組項目	<p>地域の周産期医療を支える産婦人科医・小児科医など、過酷な勤務状況等にある医師や若手医師の処遇改善、女性医師の離職防止に努めるとともに、助産師や看護師、医療技術員等についても処遇改善を含めた職場環境を充実させ、医療の高度化や患者数に見合った医療スタッフの確保・充実に努めます。また、医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者の充実に努めます。</p>								
実施内容	<p>育児短時間勤務や部分休業などの育児支援制度の活用を推進するとともに、院内保育所の充実を目的に委託事業者を見直し、27年度からの保育サービス拡大に向けた運営体制の整備に取り組みました。また、分娩取扱手当創設などの処遇改善のほか、医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者の充実に努めました。</p> <p><医師事務作業補助者数></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">25 年度</th> <th style="text-align: center;">26 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">人 数</td> <td style="text-align: center;">21 人</td> <td style="text-align: center;">29 人</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	25 年度	26 年度	人 数	21 人	29 人
区 分	25 年度	26 年度							
人 数	21 人	29 人							

(1)－3 専門スタッフの確保

取組項目	専門医、認定看護師などの専門スタッフを確保するとともに、外部講師の活用や外部研修への派遣など、研修・指導体制の充実を図り、必要な人材を育成し、チーム医療の推進を図ります。									
実施内容	診療体制を強化するため、専門医の確保を図るとともに、新たに救急看護、認知症看護の分野において認定看護師を養成しました。 <専門医・認定看護師数> <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>専門医</td><td>94人</td><td>106人</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>12人</td><td>15人</td></tr></tbody></table>	区分	25年度	26年度	専門医	94人	106人	認定看護師	12人	15人
区分	25年度	26年度								
専門医	94人	106人								
認定看護師	12人	15人								

(2) 高度専門医療の充実

(2)－1 がん拠点病院の機能充実

取組項目	地域がん診療連携拠点病院として放射線治療体制を充実・強化するため、放射線治療施設を建設し、通常の放射線治療機器に加え、強度変調放射線治療装置と検査精度の向上等に有効な PET-CT を新規に導入します。
実施内容	「放射線治療施設等整備に係る基本設計及び実施設計」に基づき、28年度開設に向けた放射線治療施設の整備工事に着手しました。



(2)－2 患者にやさしい治療の推進

取組項目	手術支援ロボットシステム等を活用した内視鏡手術を積極的に行い、患者にやさしく負担の少ない治療に努め、早期の社会復帰をサポートするなど医療ニーズに応じた治療を行います。															
実施内容	<p>手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」による内視鏡手術は、泌尿器科が25年10月から「前立腺悪性腫瘍手術」を開始し、産婦人科が26年8月から「子宮悪性腫瘍手術」、外科が26年10月から「直腸悪性腫瘍手術」、27年1月から「胃悪性腫瘍手術」を開始しました。</p> <p><手術支援ロボットによる実績></p> <table border="1" data-bbox="453 689 1026 949"> <thead> <tr> <th>手術式</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前立腺悪性腫瘍手術</td> <td>15件</td> <td>28件</td> </tr> <tr> <td>子宮悪性腫瘍手術</td> <td>－</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>直腸悪性腫瘍手術</td> <td>－</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>胃悪性腫瘍手術</td> <td>－</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>	手術式	25年度	26年度	前立腺悪性腫瘍手術	15件	28件	子宮悪性腫瘍手術	－	8件	直腸悪性腫瘍手術	－	3件	胃悪性腫瘍手術	－	0件
手術式	25年度	26年度														
前立腺悪性腫瘍手術	15件	28件														
子宮悪性腫瘍手術	－	8件														
直腸悪性腫瘍手術	－	3件														
胃悪性腫瘍手術	－	0件														

(2)－3 救急医療の充実

取組項目	真に救急医療を必要とする重篤な患者の受入を円滑にするため、コンビニ受診の自粛啓発や「かかりつけ医」制度の周知に努めます。									
実施内容	<p>地域医療支援病院として、地域医療機関との機能分担と相互連携の重要性及び「かかりつけ医」を持つことの有益性を広報誌で周知するとともに、重篤な患者に対して、断らない救急医療の徹底に努めました。</p> <p><救急外来患者数、救急車による搬送数></p> <table border="1" data-bbox="453 1440 986 1592"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急外来患者数</td> <td>26,368人</td> <td>25,142人</td> </tr> <tr> <td>救急車による搬送数</td> <td>6,914件</td> <td>6,973件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	救急外来患者数	26,368人	25,142人	救急車による搬送数	6,914件	6,973件
区分	25年度	26年度								
救急外来患者数	26,368人	25,142人								
救急車による搬送数	6,914件	6,973件								

(2) - 4 周産期医療の充実

取組項目	<p>総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊婦を積極的に受け入れ、高度な専門医療と看護を提供します。また、正常分娩への対応として助産師が主体となるバースセンターの充実を図ります。</p>															
実施内容	<p>母体・胎児集中治療室（MFICU）に新たに当直医師を加え、産婦人科医師2名の当直体制とするとともに、臨床心理士1名を配置し、26年4月に総合周産期母子医療センターの指定を受けました。また、バースセンターの開設に合わせて、里帰り出産の受け入れも開始しました。</p> <p><総合周産期母子医療センター・バースセンター実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母体搬送受入数</td> <td>198件</td> <td>231件</td> </tr> <tr> <td>新生児搬送受入数</td> <td>119件</td> <td>97件</td> </tr> <tr> <td>助産師主体分娩数</td> <td>—</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>里帰り分娩数</td> <td>—</td> <td>67件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	母体搬送受入数	198件	231件	新生児搬送受入数	119件	97件	助産師主体分娩数	—	4件	里帰り分娩数	—	67件
区分	25年度	26年度														
母体搬送受入数	198件	231件														
新生児搬送受入数	119件	97件														
助産師主体分娩数	—	4件														
里帰り分娩数	—	67件														

(3) 地域連携の推進

(3) - 1 地域の医療機関との連携強化

取組項目	<p>患者が安心して地域で総合的かつ継続的に治療・療養が受けられるよう、患者総合支援センターを拠点として、地域の医療機関及び福祉関係機関との一層の連携強化を図り、地域医療支援病院を目指します。</p>									
実施内容	<p>地域連携登録医制度による地域の医療機関との連携強化、開放型病床等の共同利用の推進、紹介・逆紹介率の向上などに努め、26年9月26日付で「地域医療支援病院」の承認を得ることができました。</p> <p><地域連携登録医数、開放型病床利用率></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域連携登録医数</td> <td>378人</td> <td>403人</td> </tr> <tr> <td>開放型病床利用率</td> <td>39.1%</td> <td>14.3%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	地域連携登録医数	378人	403人	開放型病床利用率	39.1%	14.3%
区分	25年度	26年度								
地域連携登録医数	378人	403人								
開放型病床利用率	39.1%	14.3%								

※地域医療支援病院：紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医等を支援する病院をいい、患者紹介率など一定の条件を満たす病院を知事が承認するもの

(3)－2 地域医療連携ネットワークシステムの構築

取組項目	正確な情報に基づいた質の高い安全な医療を提供するため、患者の診療情報を紹介元・紹介先の医療機関と共有できる地域医療連携ネットワークシステムを構築します。
実施内容	先進事例を調査するとともに地域医療連携を推進する会議等に参加し、現状把握を行いました。また、「地域医療連携ネットワークシステム」の前提として、診療情報遠隔参照システム（院外にいる当院医師がカルテ等の診療情報をネットワークを介して閲覧できるシステム）の開発費を27年度予算に計上しました。

(4) 災害対応の強化

(4)－1 災害に強い施設の構築

取組項目	災害拠点病院としての機能を強化するため、施設・設備の耐震化や津波対策を進め、災害に強い病院施設の構築に努めます。
実施内容	<p>災害に強い電気設備への更新とともに非常用発電設備の更新・増設工事に着手したほか、高架水槽（飲料用）の耐震補強工事を開始しました。</p> <p><工事概要></p> <p>特別高圧受変電設備の設置（26～28年度）</p> <p>非常用発電設備の更新・増設（26～28年度）</p> <p>高架水槽（飲料用）の耐震補強（26～27年度）</p>

(4)－2 災害用備蓄品の整備

取組項目	災害拠点病院としての機能を強化するため、非常食の拡充や災害用医療機器を整備します。												
実施内容	<p>非常食については、職員用の非常食を3日分から5日分に拡充しました。また、災害用医療機器として、屋外での使用が可能なポータブルX線撮影装置等を整備しました。</p> <p><非常食の内訳></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>想定人数</th> <th>期間等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者用</td> <td>600人</td> <td>5日分</td> </tr> <tr> <td>外来患者（帰宅困難者）用</td> <td>300人</td> <td>1食分</td> </tr> <tr> <td>職員用</td> <td>700人</td> <td>5日分</td> </tr> </tbody> </table>	区分	想定人数	期間等	入院患者用	600人	5日分	外来患者（帰宅困難者）用	300人	1食分	職員用	700人	5日分
区分	想定人数	期間等											
入院患者用	600人	5日分											
外来患者（帰宅困難者）用	300人	1食分											
職員用	700人	5日分											

(4)－3 定期的な災害対応訓練の実施

取組項目	災害時における対応の強化を図るため、定期的な災害対応訓練を実施するとともに、必要に応じて災害対応マニュアルを改訂します。
実施内容	災害対応訓練について、愛知県主催の中部ブロックDMAT実動訓練と共同実施し、南海トラフ巨大地震が休日に発生したことを想定した発災直後の対応訓練、津波警報発令時の病棟患者避難誘導訓練及び外部DMATの受け入れ訓練を行いました。

(5) 効率的・効果的な病院運営の推進

(5)－1 ベンチマーク分析の活用等による経費の節減

取組項目	ベンチマーク分析の活用や在庫管理の徹底等により、材料費や資産購入費など経費の節減を図ります。
実施内容	<p>診療材料等の購入価格抑制や後発薬品の使用拡大によりコスト節減を図りました。</p> <p><26年度実施のコスト節減による効果額></p> <p>診療材料 ▲ 9,111 千円</p> <p>後発薬品 ▲22,896 千円</p> <p>医療器械 ▲ 5,632 千円</p>

※ベンチマーク分析：他病院と「提供する医療の質」「運営効率」「コスト」などを比較分析し、自らの活動を評価したり、改善点を発見するために用いられる手法

(5)－2 環境負荷通減への取組

取組項目	職員一人ひとりが環境負荷の通減に率先して取り組むことにより、経費の節減を図ります。また、高効率な設備への更新など省エネルギー化に努め、環境にやさしい施設を構築します。
実施内容	<p>ダウンライトを中心に既設の照明器具をLEDタイプに更新するなど、消費電力の削減に努めました。</p> <p><LED照明への更新></p> <p>ダウンライト 384 台</p> <p>階段通路誘導灯 41 台</p> <p>外灯（駐車場） 6 台</p>

(5)－3 未収金対策

取組項目	<p>無保険者や生活困窮者に対して、早期に社会保障制度の活用を促し、未収金の発生防止に努めます。また、休日訪問実施など効果的な催告業務に努めます。</p>																																		
実施内容	<p>患者入院時において、高額な医療費は「限度額適用認定証」の交付を受けることにより支払額が軽減される制度の説明を行い、未収金の発生抑制に努めるとともに、医療費の未納者に対し、休日訪問による催告と電話や文書などによる催告を繰り返し行いました。</p> <p>また、処理困難事案については、豊橋市債権管理条例に基づき債権管理課へ引き継ぎ、回収の効率化を図りました。</p> <p><未収金の状況（個人負担分）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>年間調定額 ①</th> <th>①の翌年度末未収金額 ②</th> <th>未収金の割合 ②/①</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24年度</td> <td>3,599,077千円</td> <td>38,009千円</td> <td>1.06%</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>3,459,204千円</td> <td>38,655千円</td> <td>1.12%</td> </tr> </tbody> </table> <p><債権管理課への移管及び収入実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">移管実績</th> <th colspan="2">収入実績</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>56件</td> <td>16,246千円</td> <td>26件</td> <td>1,218千円</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>189件</td> <td>39,516千円</td> <td>73件</td> <td>3,367千円</td> </tr> </tbody> </table>				区分	年間調定額 ①	①の翌年度末未収金額 ②	未収金の割合 ②/①	24年度	3,599,077千円	38,009千円	1.06%	25年度	3,459,204千円	38,655千円	1.12%	区分	移管実績		収入実績		件数	金額	件数	金額	25年度	56件	16,246千円	26件	1,218千円	26年度	189件	39,516千円	73件	3,367千円
区分	年間調定額 ①	①の翌年度末未収金額 ②	未収金の割合 ②/①																																
24年度	3,599,077千円	38,009千円	1.06%																																
25年度	3,459,204千円	38,655千円	1.12%																																
区分	移管実績		収入実績																																
	件数	金額	件数	金額																															
25年度	56件	16,246千円	26件	1,218千円																															
26年度	189件	39,516千円	73件	3,367千円																															

(5)－4 診療データの活用

取組項目	<p>効率的な病院運営を推進するため、病院総合情報システムが蓄積している診療データを二次利用し、診療支援や臨床研究に活用するとともに、医療の質評価指標（Q I）の活用による効果的な医療活動の改善に取り組みます。</p>
実施内容	<p>診療支援や臨床研究に必要とされるデータの抽出を約100件行いました。また、「医療の質の評価・公表等推進事業（Q I 推進事業）」に参加し、他の医療機関と比較した「医療の質評価指標（Q I）データ」を院内へ周知することにより、医療活動の改善に努めました。</p>

※医療の質評価指標：「退院後6週間以内の再入院率」など診療データを活用した医療の質を経年的に評価し、改善活動に用いる指標として一般社団法人日本病院会が推奨するもの

(5)－5 適正な施設運用

取組項目	<p>入院患者の療養環境を向上させるため、6人部屋を簡易個室化した4人部屋にするなど、地域医療機関の動向や患者数に応じた病床数の適正化を図るとともに、食事の改善など患者満足度の向上に努めます。</p> <p>また、施設の適正な保全・管理を行うファシリティマネジメントの推進に努めます。</p>
実施内容	<p>ファシリティマネジメント推進のため、遊休資産となっている看護師宿舎（若葉寮）について、27年度の跡地売却に向け、周辺住民への理解を得たうえ建物の解体工事を完了しました。</p>

4. 事業計画

(1) 収益的収支

① 収支計画（税抜き） 上段()書：計画、下段：決算 (単位：百万円)

区 分		H25	H26	H27	H28	H29	H30
収 入	入 院 収 益	15,391	(16,308) 15,685	(16,486)	(16,530)	(16,618)	(16,678)
	外 来 収 益	6,900	(7,152) 7,286	(7,195)	(7,635)	(7,739)	(7,783)
	国 県 補 助 金	70	(71) 63	(71)	(71)	(71)	(71)
	一般会計繰入金	1,680	(1,699) 1,673	(1,581)	(1,564)	(1,292)	(1,371)
	そ の 他 収 益	877	(1,504) 1,579	(1,470)	(1,441)	(1,634)	(1,410)
	特 別 利 益	0	(168) 192	(164)	(166)	(295)	(463)
	計	24,918	(26,902) 26,478	(26,967)	(27,407)	(27,649)	(27,776)
支 出	人 件 費	10,858	(11,329) 10,771	(11,942)	(11,934)	(12,216)	(11,963)
	材 料 費	6,880	(7,117) 6,997	(7,213)	(7,411)	(7,484)	(7,558)
	経 費	3,768	(3,634) 3,518	(3,719)	(3,829)	(3,793)	(3,861)
	減価償却費等	1,840	(2,417) 2,373	(2,668)	(2,429)	(2,661)	(2,592)
	支 払 利 息	637	(596) 593	(551)	(549)	(509)	(456)
	そ の 他 費 用	368	(572) 510	(496)	(505)	(508)	(512)
	特 別 損 失	0	(5,510) 5,467	(0)	(0)	(0)	(0)
	計	24,351	(31,175) 30,229	(26,589)	(26,657)	(27,171)	(26,942)
収 支 差 引	567	(▲4,273) ▲3,751	(378)	(750)	(478)	(834)	
会計制度変更に伴う修正	0	(9,960) 9,443	(0)	(0)	(0)	(0)	
未処分利益剰余金 (又は未処理欠損金)	▲7,518	(▲2,227) ▲1,826	(411)	(1,161)	(1,639)	(2,473)	
資本剰余金の処分	0	(2,260) 2,848	(0)	(0)	(0)	(0)	

※26年度からの会計制度変更により、みなし償却制度が廃止され、資本剰余金に整理されている償却資産の取得等に伴い交付された補助金及び一般会計繰入金等は、現に所有する資産に係る額については、長期前受金として負債に振り替えられ、減価償却見合い分を順次収益化していくことになりました。このため、26年度以降は、減価償却見合い分をその他収益の長期前受金戻入額及び特別利益に計上していきます。なお、収益化することとなったもののうち、25年度までの累計額については、直接、利益剰余金に振り替える額として、「会計制度変更に伴う修正」の欄に記載しています。また、既に除却済の償却資産に係る資本剰余金（一般会計繰入金）については、議決を経て処分し利益剰余金に振り替えます。

② 数値目標

上段()書：計画、下段：決算

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
病床数 (床)	836	(820) 820	(820)	(800)	(800)	(800)
一日平均入院患者数 (人)	727	(730) 708	(730)	(730)	(730)	(730)
患者一人当りの入院収益 (税抜き・円)	57,974	(61,200) 60,677	(61,700)	(62,040)	(62,370)	(62,590)
一日平均外来患者数 (人)	1,986	(1,900) 1,985	(1,900)	(1,900)	(1,900)	(1,900)
患者一人当りの外来収益 (税抜き・円)	14,242	(15,430) 15,042	(15,580)	(16,470)	(16,630)	(16,790)
経常収支比率 (%)	102.3	(104.2) 106.2	(100.8)	(102.2)	(100.7)	(101.4)
職員給与比率 (医業収益比・%)	46.4	(46.2) 44.8	(48.2)	(47.3)	(48.0)	(46.8)
一般病床利用率 (%)	89.1	(89.0) 88.0	(89.0)	(91.3)	(91.3)	(91.3)
平均在院日数 (日) <施設基準上の数値>	13.0	(13.8) 13.3	(13.6)	(13.4)	(13.2)	(13.0)
手術件数 (件)	7,692	(7,700) 8,113	(7,700)	(7,700)	(7,700)	(7,700)
内：内視鏡手術件数 (件)	906	(700) 1,206	(700)	(700)	(700)	(700)
放射線治療件数 (件)	9,292	(11,000) 8,455	(11,000)	(12,500)	(12,500)	(12,500)
院内がん登録者数 (人)	2,190	(2,100) 2,088	(2,100)	(2,200)	(2,200)	(2,200)
救急からの入院患者数 (人)	5,705	(5,700) 5,695	(5,700)	(5,700)	(5,700)	(5,700)
分娩件数 (件)	929	(1,200) 958	(1,300)	(1,400)	(1,400)	(1,400)
内：帝王切開分娩件数 (件)	448	(520) 413	(530)	(540)	(540)	(540)
病診連携 紹介率 (%)	59.5	(57.0) 62.5	(58.0)	(59.0)	(60.0)	(60.0)
逆紹介率 (%)	68.6	(72.0) 82.1	(73.0)	(74.0)	(75.0)	(75.0)

※職員給与比率＝賃金を含む人件費／医業収益×100

※26年度以降の平均在院日数及び病診連携は、診療報酬改定に伴い算定方法が一部変更

※院内がん登録者数は、国立がん研究センターへ報告する暦年数値

(2) 資本的収支

① 収支計画 (税込み)

上段()書：計画、下段：決算

(単位：百万円)

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
収 入	企 業 債	90	(355) 0	(7,265)	(637)	(0)	(0)
	出 資 金	88	(0) 0	(0)	(0)	(0)	(0)
	負 担 金	987	(960) 960	(917)	(959)	(1,266)	(1,308)
	固定資産売却代金	0	(0) 0	(73)	(0)	(0)	(0)
	投 資 回 収 金	0	(1) 4	(0)	(0)	(1)	(0)
	国 県 補 助 金	266	(0) 4	(0)	(0)	(0)	(0)
	計	1,431	(1,316) 968	(8,255)	(1,596)	(1,267)	(1,308)
支 出	建 設 改 良 費	1,743	(1,327) 1,012	(8,516)	(2,498)	(1,362)	(1,132)
	投 資	14	(36) 22	(36)	(37)	(36)	(36)
	償 還 金	1,599	(1,533) 1,533	(1,431)	(1,500)	(2,100)	(2,167)
	計	3,356	(2,896) 2,567	(9,983)	(4,035)	(3,498)	(3,335)
収 支 差 引 き	▲1,925	(▲1,580) ▲1,599	(▲1,728)	(▲2,439)	(▲2,231)	(▲2,027)	
補 填 財 源 使 用 額	1,925	(1,580) 1,599	(1,728)	(2,439)	(2,231)	(2,027)	
補 填 財 源 残 額	6,980	(2,212) 3,061	(2,737)	(2,696)	(2,494)	(2,841)	

※26年度からの会計制度変更に伴い義務化された各種引当金（特別損失等に計上）は、補填財源残高から除外している

② 企業債残高

上段()書：計画、下段：決算

(単位：百万円)

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
総 額	17,734	(16,557) 16,202	(22,391)	(21,528)	(19,428)	(17,261)

③ 設備投資計画 上段()書：計画、下段：決算 (単位：百万円)

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
病院改修等建設改良	426	(415) 101	(6,339)	(828)	(200)	(50)
医療機器等購入	1,317	(912) 911	(2,177)	(1,670)	(1,162)	(1,082)
合 計	1,743	(1,327) 1,012	(8,516)	(2,498)	(1,362)	(1,132)

(3) 定員管理に関する計画

上段()書：計画、下段：決算 (4/1 実人員) (単位：人)

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
医 師	172	(181) 180	(182) 184	(182)	(182)	(182)
看 護 師	708	(742) 710	(743) 709	(743)	(743)	(743)
医療技術員	162	(172) 170	(178) 179	(181)	(183)	(183)
事務職員等	52	(54) 54	(54) 54	(53)	(53)	(53)
合 計	1,094	(1,149) 1,114	(1,157) 1,126	(1,159)	(1,161)	(1,161)

5. 取り組みに対する評価

「3. 施策目標達成の具体的な取組」で記載しましたように、医療スタッフの確保、高度専門医療の充実、地域連携の推進、災害対応の強化等、東三河地域の中核病院としての役割を果たすため様々な取り組みを実施しました。

収支状況については、収益的収支において、37億5,100万円の当年度純損失となりましたが、計画値から5億2,200万円改善することができました。

また、資本的収支においても、28年度開設に向けた放射線治療施設等整備事業の推進や医療機器の更新など、概ね計画どおりに進めることができました。

一方、定員管理においては、看護師数が計画値を大きく下回る結果となりました。

これらのことから、改革プランの初年度としては、医療スタッフの確保という課題はあるものの、全体としては順調な進捗が図れたものと考えています。今後も医療体制の整備と経営健全化に向けた一層の取り組みを行い、安定的かつ良質な医療を継続して提供できる体制の構築に努めてまいります。